

**1. 沖縄県内の地域および院内がん登録の実施状況を公開する。**

目 標：昨年度行った地域および院内がん登録の実施調査の結果を更新し、公開する。

実 績： 協議未実施

評 価： 1 点

次年度：院内がん登録の実施状況を調査し、協議会のホームページで更新する。

**2. がん登録をはじめるとの説明会を企画・開催する。**

目 標：確実に院内がん登録が実施できるよう、がん登録をはじめるとの説明会を企画・開催する。

実 績：全国がん登録開始に伴い沖縄県主催で開催された全国がん登録説明会において、がん登録部会の3名の院内がん登録指導者が施設における登録実務についてそれぞれが発表を行い、これからはがん登録をはじめるとの施設の質疑に対応した。

評 価： 5 点

次年度：がん登録の法制化に伴い、各施設で新がん登録を始める施設が増えることが想定されるため、県と協力しながらがん登録をはじめるとの説明会を企画・開催する。

**3. がん登録部会の活動の学会報告および実績を論文化する。**

目 標：毎年演題を出し、部会委員が発表する。

実 績：

1) 第 41 回日本診療情報管理学会学術大会

開 催 日：平成 27 年 9 月 17 日～平成 27 年 9 月 18 日

会 場：岡山コンベンションセンター

演題 1) 沖縄県における胃がんの診療の質の評価と改善要因の分析

演者 1) 琉球大学医学部附属病院 仲本奈々

演題 2) 沖縄県がん診療連携協議会がん登録部会における市民目線でわかりやすい院内がん登録情報の発信に関する取り組み

演者 2) 那覇市立病院 平安政子

演題 3) 当院における胃がん大腸がん QI の測定の取り組み

演題 3) 沖縄県立中部病院 仲嶺八紀

2) 第 47 回沖縄県公衆衛生学会

開 催 日：平成 27 年 10 月 30 日

会 場：沖縄産業支援センター

演題 1) 沖縄県がん診療連携協議会がん登録部会における市民目線でわかりやすい院内がん登録情報の発信に関する取り組み

演者 1) 琉球大学医学部附属病院 高橋ユカ

演題 2) 院内がん登録データからみえる沖縄県がん診療連携拠点病院の役割

演者 2) 琉球大学医学部附属病院 比知屋春奈

3) 第 74 回日本公衆衛生学会総会

開 催 日：平成 27 年 12 月 4 日～平成 27 年 12 月 6 日

会 場 : 長崎ブリックホールほか

演題 5) 診療の質指標を用いたがん医療の質評価を行うためのデータ源の妥当性に関する検討

演者 5) 琉球大学医学部附属病院 仲本奈々

評 価 : 8 点

次年度 : 引き続き学会活動を継続し、部会事業の評価を行う。

#### 4. 一般向けに院内外に院内がん登録に関する広報活動を行う。

目 標 : 多くの県民が、がん登録の情報を知ることができる。

実 績 : 協議未実施

評 価 : 1 点

次年度 : がん登録の法制化に伴い、院内がん登録事業に関する広報活動を行う。

#### 5. 拠点病院のがん登録情報を定期的に開示する。

目 標 : 各拠点病院の院内がん登録報告書を作成し、公開する。多くの県民が、がん登録の情報を知ることができる。

実 績 : 各拠点病院の院内がん登録報告書について、国立がん研究センターのがん診療連携拠点病院院内がん登録全国集計報告書や各県で作成されている集計報告書を参考に、報告書の内容を修正した。また、これまで集計表のみだった報告書にグラフやイラストを追加し、幹事会や協議会で意見を伺うなど報告書作成に取り組んだ。平成 27 年 3 月に報告書の冊子製本に向けて準備をおこなっている。

評 価 : 8 点

次年度 : 拠点病院のがん登録情報を定期的に開示する。

#### 6. 拠点病院で予後調査を実施し 5 大がんの生存率を算定する。

目 標 : 各拠点病院で 5 大がんの 5 年生存率を算定する。

実 績 : 3 拠点病院（琉大病院、那覇市立病院、中部病院）において、院内がん登録データを用いて 5 大がんの生存率を計測した。平成 28 年 3 月に発行される院内がん登録報告書に掲載する予定である。

評 価 : 8 点

次年度 : 拠点病院以外に広げ生存率の計測、公開できるよう進める。

#### 7. 沖縄県内のがん登録研修会を企画・開催する。

目 標 : 学会発表のための基本や新標準登録様式に関する研修会を年に 2 回開催し、各施設に情報提供等を行う。

実 績 : 今年度の第 1 回研修会の日程は、2015 年 5 月 16 日（土）に開催し、講師に東京大学大学院医学系研究科公衆衛生学助教の中村文明先生をお招きした。「学会発表のためのキホン」をテーマとし、抄録の書き方やスライドの作り方などの講義を行った。第 2 回は 2016 年 2 月 20 日（土）に開催し、講師には国立がんセンターの江森佳子先生をお招きする。「新標準登録様式について」をテーマとし変更点の確認、演習などを行う。第 1 回目の参加者数は 42 名であり、好評を得た。

評 価 : 10 点

次年度 : 引き続き研修会を継続し、研修会の評価を行う。

## 8. 国立がん研究センターの実務者研修会に参加する。

目 標：平成 27 年 3 月までに、全国がん登録実施対象のすべての病院でがん登録初級修了者が誕生する。

実 績：協議未実施

評 価：1 点

次年度：平成 28 年 4 月時点の各施設の院内がん登録初級者研修修了者数を調査する。

## 9. 厚生労働省科学研究(第三次対がん総合戦略研究)「院内がん登録の標準化および普及に関する研究」班(主任研究員西本寛)の Collaborative staging の研究に協力する。

目 標：平成 28 年 3 月までに、拠点病院で、collaborativestaging 登録を行い、結果を分析する

実 績：協議未実施

評 価：1 点

次年度：拠点病院で Collaborative staging の登録結果を分析する。

## 10. 拠点病院においてがん診療の質の評価を行う。

目 標：拠点病院のがん診療の質の評価を行うため Q I の測定・評価を継続的に行う。

実 績：2009 年と 2011 年の胃がん大腸がんのがん診療の質指標(QI)の計測を行い、経年比較を行い、各施設の臨床医に対してフィードバックを行ってきた。今年度は 2013 年の胃がん大腸がん QI の計測のためのカルテ採録は終了した。採録した結果をもとに 3 月までに計測を行う予定である。

評 価：8 点

次年度：拠点病院のがん診療の質の評価を行うため QI の測定・評価を継続的に行う。

# 平成28年度がん登録部会

全体目標

がんにより死亡する人の減少  
がんの年齢調整死亡率(75歳未満、人口10万人当たり)を平成29年度までに20%減少させる。

すべてのがん患者及びその家族の苦痛の軽減並びに療養生活の質の維持向上

部会が担当する分野の課題と目標

## 【目標】がん対策の計画をするための基礎データが整って、活用されている

**中間目標** 罹患数と死亡数の比が1.5～1.7。25施設でQIが測定される。

**指標** ①罹患数と死亡数の比(I/M比)  
②QI(標準的な診療がどの程度行われているかの実行率)

**測定方法** ①届出数と人口動態統計の死亡数の比  
②必要な項目をカルテから収集

**最終目標** 罹患数と死亡数の比1.8～2.0。すべての施設でQIが測定され、がん医療の質の向上がはかられている。

**指標** ①罹患数と死亡数の比(I/M比)  
②QI(標準的な診療がどの程度行われているかの実行率)

**測定方法** ①届出数と人口動態統計の死亡数の比  
②必要な項目をカルテから収集

施策毎のアウトカム目標

### 【アウトカム1】

沖縄県保健医療計画におけるがん専門施設で、院内がん登録が行われる。  
<指標>  
全国がん登録・院内がん登録実施施設数、DCO

### 【アウトカム2】

全国および院内がん登録の情報がちくじ医療機関・行政・市民に届く。

### 【アウトカム3】

登録の重要情報に欠損がない入力ができ、誤りのない入力ができている。  
<指標>  
5大がんステージ入力率、精度指標スコア

### 【アウトカム4】

がん診療の質が向上する  
<指標>  
QIスコア

施策毎のアウトプット目標

【アウトプット】  
全国および院内がん登録、予後調査、生存率計測の実施調査の結果を更新し、公開する。

【アウトプット】  
2017年3月までに、がん専門施設すべてで院内がん登録を実施する。

【アウトプット】  
毎年演題を出し、部会委員が発表する。また、学会にて最新の情報を収集する

【アウトプット】  
多くの県民が、がん登録の情報を知ることができる

【アウトプット】  
それぞれが希望する形で登録情報が公開される。

【アウトプット】  
各施設で生存率を算定し、公開する。

【アウトプット】  
年に4回開催し、200名の実務者が参加する。

【アウトプット】  
2017年3月までに、がん専門施設すべてで初級者認定者が誕生する。

【アウトプット】  
院内がん登録施設すべてで、精度の高い入力される。

【アウトプット】  
拠点病院のがん診療の質の評価を行うためQIの測定・評価を継続的に行う。

施策アクションプラン

【施策1】  
沖縄県内の全国および院内がん登録、予後調査、生存率計測の実施状況を公開する。

【施策2】  
院内がん登録をはじめの説明会を企画・開催する。

【施策3】  
がん登録部会の活動を学会報告および実績を論文化する。

【施策4】  
院内がん登録に関する広報活動を行うなど患者目線の情報発信を行う。

【施策5】  
院内がん登録実施施設において、院内がん登録情報を定期的に開示する。

【施策6】  
院内がん登録実施施設において、予後調査を実施し(生死不明割合9割以上)、生存率を算定する。

【施策7】  
沖縄県内で院内がん登録研修会を企画・開催する。

【施策8】  
国立がん研究センターの実務初級者認定試験を受験する。

【施策9】  
院内がん登録データの精度分析を行う。

【施策10】  
拠点病院においてがん診療の質の評価を行い、がん医療の質が向上する。

ワークシート1で導き出された対策項目

【対策項目1】  
院内がん登録を実施するための情報提供体制の強化

【対策項目2】  
医療機関・行政・市民への情報還元体制の整備

【対策項目3】  
全国および院内がん登録実務者のレベルアップ

【対策項目4】  
がん診療の質の把握